

第27回

全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会総会

議 事 要 旨

日 時 平成23年11月18日（金）

場 所 伊香保森秋旅館（群馬県渋川市）

当番校 群馬大学生体調節研究所附属生体情報ゲノムリソースセンター

【出席者】

文部科学省	研究振興局 学術機関課	研究設備係長	高田 安隆
文部科学省	研究振興局 ライフサイエンス課 生命倫理・安全対策室		
		ヒト細胞研究対策専門官	美留町 潤一
北海道大学	理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター	遺伝子実験共同利用部門	
		准教授	滝谷 重治
弘前大学	遺伝子実験施設	准教授	赤田 辰治
東北大学	遺伝子実験センター	事務員	庄司 真未
茨城大学	遺伝子実験施設	施設長	安西 弘行
筑波大学	遺伝子実験センター	センター長	鎌田 博
	//	准教授	松倉 千昭
	//	技官	伊藤 和幸
宇都宮大学	バイオサイエンス教育研究センター	准教授	松田 勝
	//	助教	児玉 豊
埼玉大学	総合研究機構・科学分析支援センター	講師	畠山 晋
千葉大学	バイオメディカル研究センター	教授	幡野 雅彦
東京大学	大学院理学系研究科附属遺伝子実験施設	准教授	眞田 佳門
東京医科歯科大学	医歯学研究支援センター	センター長	中村 正孝
東京農工大学	遺伝子実験施設	教授	丹生谷 博
東京工業大学	バイオ研究基盤支援総合センター	教授（セク長）	広瀬 茂久
	//	准教授	増田 真二
新潟大学	脳研究所 附属生命科学リソース研究センター	センター長	桑野 良三
富山大学	生命科学先端研究センター 遺伝子実験施設	准教授	田淵 圭章
金沢大学	学際科学実験センター	准教授	西内 巧
信州大学	ヒト環境科学研究支援センター-遺伝子実験部門	准教授	松村 英生
	//	助教	小笠原 寛
岐阜大学	生命科学総合研究支援センター ゲノム研究分野	准教授	須賀 晴久
静岡大学	遺伝子実験施設	准教授	道羅 英夫
情報・システム研究機構	国立遺伝学研究所 遺伝子組換え実験安全委員会		
		委員長・教授	山尾 文明
自然科学研究機構	基礎生物学研究所	教授	藤森 俊彦
名古屋大学	遺伝子実験施設	教授	杉田 護
三重大学	生命科学支援センター-遺伝子実験施設	准教授	土屋 亨
京都大学	医学部附属病院 探索医療センター	教授	清水 章
大阪大学	微生物病研究所附属遺伝情報実験センター	センター長	安永 照雄

神戸大学	遺伝子実験センター	センター長教授	深見 泰夫
	//	研究支援推進員	朴 文守
鳥取大学	生命機能研究支援センター-遺伝子探索分野	教授	難波 栄二
	//	助教	足立 香織
島根大学	総合科学研究支援センター 遺伝子機能解析分野	分野長・教授	中川 強
岡山大学	自然生命科学研究支援センター ゲノムプロテオーム解析部門	助教	宮地 孝明
広島大学	自然科学研究支援開発センター 遺伝子実験部門	部門長・教授	田中 伸和
山口大学	総合科学実験センター 遺伝子実験施設	教授	水上 洋一
徳島大学	疾患ゲノム研究センター 遺伝子実験施設	センター長	高浜 洋介
香川大学	遺伝子実験施設	准教授	多田 安臣
愛媛大学	総合科学研究支援センター	准教授	秋山 浩一
	// 研究支援課研究支援チーム	チームリーダー	黒田 伊久男
高知大学	総合研究センター 生命・機能物質部門	講師	加藤 伸一郎
九州大学	生体防御医学研究所附属遺伝情報実験センター	准教授	山本 健
佐賀大学	総合分析実験センター	准教授	永野 幸生
長崎大学	先導生命科学研究支援センター ゲノム機能解析分野	准教授	木住野 達也
熊本大学	生命資源研究・支援センター バイオ情報分野 (遺伝子実験施設)	准教授	荒木 正健
	//	助教	吉信 公美子
宮崎大学	フロンティア科学実験総合センター	センター長	林 哲也
	//	助教	権藤 崇裕
鹿児島大学	フロンティアサイエンス研究推進センター 遺伝子実験施設	教授	田浦 悟
琉球大学	熱帯生物圏研究センター 分子生命科学研究施設	施設長・教授	前川 秀彰
関西医科大学	生体情報部門	准教授	松田 達志
東邦大学	遺伝子組換え実験安全委員会	委員長・教授	山下 茂
沖縄科学技術大学院大学	研究安全課	研究安全課長	田中 俊憲
東海大学	遺伝子組換え実験安全委員会	委員長・教授	木村 穰
群馬大学	生体調節研究所附属生体情報ゲノムリソースセンター	センター長	平井 宏和
	//	教授	畑田 出穂
	//	助教	堀居 拓郎

(オブザーバー)

(独) 理化学研究所 安全管理部研究倫理課 課長 吉識 肇

(独) 放射線医学総合研究所

// 分子イメージング研究センター運営企画ユニットR1棟・画像関連
実験施設管理運営室 室長 野島 久美恵
// 安全管理課安全管理第2係 係長 高倉 伸夫

(連絡協議会事務局)

群馬大学 生体調節研究所 所長 岡島 史和
// 昭和地区事務部 課長 福田 美則
// // 副課長 古川 精一
// // 係長 小嶋 隆
// // 係長 伊藤 巧
// // 係員 中山 圭介

【会議次第】

- 1 開会の辞 群馬大学昭和地区事務部総務課長 福田 美則
- 2 当番大学挨拶 群馬大学 生体調節研究所 所長 岡島 史和
- 3 議 事
 - 1) 新規会員等の参加承認
 - 2) 文部科学省施策説明
 - ①平成24年度概算要求の概要等について
文部科学省 研究振興局 学術機関課 研究設備係長 高田 安隆
 - ②カルタヘナ法について
責任及び救済について（名古屋・クアラルンプール補足議定書）
災害等への対応について（カルタヘナ法関連）
文部科学省 研究振興局 ライフサイエンス課 生命倫理・安全対策室 ヒト細胞研究対策専門官
美留町 潤一
 - 3) 会計報告
 - 4) 委員会報告
 - ①企画委員会（神戸大学 深見 泰夫）
 - ②研究環境支援整備委員会（茨城大学 安西 弘行）
 - ③IT環境整備委員会（熊本大学 荒木 正健）
 - ④組換え生物等委員会（広島大学 田中 伸和）
 - 5) 震災バックアップについて
 - 6) 次回当番施設について
 - 7) その他
- 4 閉会の辞

第27回全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会総会議事要旨

日 時：平成23年11月18日（金）

場 所：伊香保 森秋旅館（群馬県渋川市）

1. 開会

司会（福田課長）から開会の挨拶があった。

2. 当番大学挨拶

当番大学の群馬大学を代表して、岡島生体調節研究所長から挨拶があった。

3. 議事

議事に先立ち、司会から、本日の予定の説明と配布資料の確認があった。

次いで司会から、議長の選出について、慣例により当番校の群馬大学が議事を進行する旨提案があり、了承された。

それを受けて、群馬大学生体調節研究所附属生体情報ゲノムリソースセンターの平井センター長が議長となり、議事を進行することとなった。

1) 新規会員等の参加承認

平井議長から、東海大学の新規加入及び理化学研究所のオブザーバーから会員への変更について提案があり、審議の結果了承された。

次に、平井議長から放射線医学総合研究所のオブザーバーの登録について提案があり、審議の結果了承された。

2) 文部科学省施策説明

①平成24年度概算要求の概要等について

文部科学省研究振興局学術機関課高田係長から、平成24年度の概算要求の概要等について以下のとおり説明があった。

- ・ 概算要求枠のうち、義務的経費は、前年度当初予算における各経費の合計額に相当する額の範囲内において要求する。
- ・ 概算要求枠のうち、運営費交付金を含めたその他の経費は、前年度当初予算における額の10%減の範囲内で要求する。
- ・ その他の経費について、平成23年度当初予算に相当する額と基礎額との差額の1.5倍の範囲内で要望を行うことが出来る。

さらに、科学研究関連の概算要求の内容について、具体的な説明があった。

それに対し、東京工業大学広瀬教授から、そのほかの経費の増額は運営費交付金の減額の分がまわった印象を受けたが、運営費交付金を増額するときにはどうするのかとの質問があった。

それに対し、高田係長から、運営費交付金を増額する場合は、他の経費の兼ね合いもあるので一概には言えないが、先ほど説明した増額の経費には運営費交付金の分も含まれているとの回答があった。

②カルタヘナ法について

責任及び救済について（名古屋・クアラルンプール補足議定書）

災害等への対応について（カルタヘナ法関連）

文部科学省研究振興局ライフサイエンス課美留町ヒト細胞研究対策専門官から、カルタヘナ法に基づく遺伝子組換え生物等の具体的な使用方法と注意点、責任及び救済に関する補足議定書の概要、災害時の対応等について説明があった。

それに対し、野島放射線医学総合研究所室長から、議定書締結に向けた国内法の改正の現状及び海外で批准した国の有無について質問があった。

それに対し、美留町ヒト細胞研究対策専門官から、国内法の改正の現状については現在他省庁と協議中であり、また、海外で批准した国は現時点ではない旨回答があった。

続いて野島放射線医学総合研究所室長から、議定書が発効した場合、日本も守らざるを得なくなるが、どうなるのかとの質問があった。

それに対し、美留町ヒト細胞研究対策専門官から、管理する側の国内法に従うことになっているので、発効になったとしても、不利になるようなことは避ける方向で考えているとの回答があった。

3) 会計報告

平成22年度の決算報告について、鎌田前代表幹事から報告があり、次いで難波前監査役から、会計監査の結果、適正に処理されている旨報告があった。

次に、平成23年度前期収支報告書について、難波代表幹事から報告があり、次いで鎌田監査役から、会計監査の結果、適正に処理されている旨報告があった。

次に、平成24年度予算案について、難波代表幹事から説明があった。

審議の結果、提案どおり平成24年度予算案が承認された。

4) 委員会報告

①企画委員会

深見委員長から、以下のとおり報告があった。

- ・ これまで代表幹事が委員長を務めてきたが、今年度から分業することとな

った。

- ・ 本年度の安全研修会は、7月2日（土）学術総合センターにおいて開催した。
- ・ 来年度の安全研修会は、7月7日（土）に神戸大学で開催予定である。
- ・ 「留学生・外国人のための英語による安全教育訓練テキスト」作成について、ワーキンググループを設置し、具体的作業にとりかかっている。

それに対し、京都大学清水教授から、英語テキストは第二著作物になるが、著作権はどうするのかとの質問があった。

それに対し、深見委員長から、詳細については検討中ではあるが、改変できない形で、相手から許諾を得ようと考えている、また各施設に送付する際に、注意事項をつけようと考えているとの回答があった。

次に、田中沖縄科学技術大学院大学研究安全課長から、どのように説明するのかシナリオは作らないのかとの質問があった。

それに対し、深見委員長から、検討しているとの回答があった。

また、田中沖縄科学技術大学院大学研究安全課長からイーラーニングで作成している資料の提供の申し出があった。

②研究環境支援整備委員会

安西委員長から、以下のとおり報告があった。

- ・ 共同利用可能な設備・機器の情報収集と提供について、現在検討中である。
- ・ 設備サポートセンターについて、大学の機器の有効活用のためにサポートの強化や共同利用を積極的に進めることを目的に、文部科学省で設けた拠点の6大学のうち、遺伝子協に加入している5大学と、委員会でワーキンググループを立ち上げ、情報交換を行いながら、検討している。

③IT環境整備委員会

荒木委員長から、本委員会はIT環境の整備に関して当初の目的を達成したと考えられるため、委員会の名称を「広報委員会」に変更したい旨提案があった。

それに対し、徳島大学高浜センター長から、委員会の目的の「啓蒙活動」を「理解増進活動」、名称を「広報・コミュニケーション委員会」に修正してはどうかとの意見があった。

また、前川琉球大学教授から、委員会でニュースレターを出せないかとの意見があった。

それらの意見に対し、委員会で引き続き検討することとなった。

次に、荒木委員長から、ホームページサーバを現在移行作業中である旨報告があった。

続いて、難波代表幹事から、活動報告書「遺伝子」について、きちんと情報収集を行い、作成する旨発言があった。

併せて、運営に関する覚書に「当面」が3箇所あるが、削除してはどうか、また、附則の「覚え書き」について、他の条文と整合性をとってはどうかとの意見が出された。

審議の結果、覚書を下記のとおり改正することが、了承された。

- ・「IT環境整備委員会」を「広報委員会」に変更。
- ・「(役員の数)」「(委員会)」「(会費)」の「当面」を削除。
- ・附則の「覚え書き」を「覚書」に修正。

④組換え生物等委員会

田中委員長から、以下のとおり報告があった。

- ・ 会員及びオブザーバーに、カルタヘナ法及び文部科学省からのお知らせを中心に組換え生物等委員会通信を7通送付した。
- ・ 1月に第二種使用等の遺伝子組換え生物の譲渡等の情報提供書を作成し、ホームページで公開している。
- ・ カイコ、メダカ、ホヤの拡散防止措置の例をホームページで公開している。カエル、ショウジョウバエ、ニワトリは、来年の総会までには完成させたい。
- ・ カルタヘナ法相談窓口を開設し、相談を受け付けている。内容は基本的には公表しない。

5) 震災バックアップについて

難波代表幹事から、3月の震災を受けて、基礎生物学研究所に生物遺伝資源のバックアップ拠点を設置する方向で動いているが、遺伝子協でも重要なかわりがあるため、今後情報提供を行い、また、現場の意見を取りまとめて検討していきたい旨報告があった。

6) 次回当番施設について

平井議長から、愛媛大学へ次回の当番校を依頼し、愛媛大学は了承した。

続いて、愛媛大学秋山准教授から挨拶と、今後の対応について質問があり、難波代表幹事から回答があった。

7) その他

- ・ 新しく会員になった東海大学、理化学研究所、オブザーバーに登録された放射線医学総合研究所からそれぞれ挨拶があった。

- ・ 畠山埼玉大学講師から、会員とオブザーバーのすみわけについて質問があった。

それに対し、難波代表幹事から、オブザーバーの概念が当初と変わってきているため、会員とオブザーバーの関係を整理して、来年度の総会において提案したい旨回答があった。

4 閉会

司会（福田課長）から閉会の挨拶があった。

以 上